

島民創作ミュージカル  
「えらぶ百合物語」  
The story of Elove Lily



ユリとリリイが遊ぶ姿を遠くから見守るナミとアイザックの囃。高校3年生4名が演じて?遊んで?おります。

撮影場所：タラソの風



芸術文化振興基金助成事業

あなたと蒔いた希望の種を  
永遠にこの地につなぐ



脚本・演出・音楽 松永太郎

島民創作ミュージカル

「えらぶ百合物語」

The story of Elove Lily

～海を越え 愛を咲かせる 白い花～

# Introduction

島民創作ミュージカル  
「えらぶ百物語」  
The story of Elove Lily

本日は、島民創作ミュージカル「えらぶ百物語」にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

えらぶ百物語は、平成23年1月22日の第1回目の公演を機に、過去3回公演されてきました。高校生を中心に、島内の小学生から大人まで、幅広い年齢層から出演者が集いました。約10ヶ月の稽古を重ねてきましたが、初めてミュージカルを経験するメンバーが多く、難しさ、またもどかしさを抱えながらも、お互いに励ましあい、子ども達は日々成長しながら、本公演を作り上げてきております。稽古をしていく中で、多くの方々と出会い指導を受け、関わってくれた方々の気持ちを知り、深く舞台と向き合うことが出来たこと、メンバー1人1人とても大きな財産となっております。



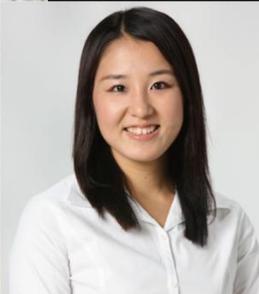
様々な気持ちを抱え、舞台を踏み、本公演を終えたときそれぞれの思いや気持ちはどう変化しているのか・・・

このメンバーでは最初で最後の「えらぶ百物語」このメンバーでしかできない歌・ダンス・表現を精一杯自分たちなりに演じます。膨大な時間を費やし、その眩しい一瞬（2時間）に懸けた魂のステージに目を離さずご覧ください。会場の皆様自身も、「何か」を感じていただけたら幸いです。間もなく、島民創作ミュージカル「えらぶ百物語」開演です！ごゆっくりお楽しみください。



# Assistant

島民創作ミュージカル  
「えらぶ百物語」  
The story of Elove Lily



## 宗村 有里子 演出助手

玉川大学芸術学部卒業後、舞台を中心に活動。主な出演作品は、東宝ミュージカルアカデミー卒業公演「レ・ミゼラブル」マダム・テナルディエ役（シアタークリエ）、ミュージカル座「タイムフライズ」（シアター1010）、「華麗なるミュージカル音楽の世界 ガラコンサート～サットン・フォスター来日記念スペシャル～」（新国立劇場）、「国民文化祭やまなし2013」総合開幕式パフォーマンス（コラニー文化ホール）等。

身体へのケアにも興味を持ち、新体操のコーチやストレッチトレーナーとしても活動してきた。2014年、母親の出身地である知名町に移住。現在沖永良部島5年生。

「えらぶ百物語」の稽古では舞台の楽しさを知ってもらうことを第一に指導してきた。

本物の舞台を知っているからこそその厳しい言葉や、舞台において大切なことを、子ども達に自分の経験を活かし指導にあたっている。今回は先生役として出演。



## 岩澤剣司&吉野空子 振付指導

専門学校の教室シーン振付（グローバルファイト他）及  
締太鼓、演技まで幅広く指導

「劇団ニライスタジオ」で若手  
中核メンバーとして活動する二人。宝山ホール主催「ミュージカル・ヤジロウと海乱鬼」や、「ミュージカル・花戦さ」などに出演。役者、ダンサーとして活躍する。

今回のミュージカルではダンスの振付や指導を担当。とても親しみやすい「けんちゃん」と「空子姉ちゃん」として子どもたちからも大人気。

本番ではどちらかがこっそりと出演しているという噂があるので、ぜひ探してみてください。

# Staff

【主催】 知名町

【主管】 おきえらぶ文化のまちづくり実行委員会（知名町教育委員会事務局生涯学習課）  
【脚本・演出・音楽】 松永 太郎

【舞台監督】 西 太三（舞研）【音響】 神園 一成（舞研）【照明】 白土 真也（舞研）  
【舞台】 システムラボ、田辺 栄、宮城 幸也、金城 康弘

【演奏】 田口 和行（ギター）、上谷 耕平（ベース）、永 志保（キーボード・三味線）、  
東 桃子（キーボード）、松永 太郎（ドラム）

【演奏協力】 川口 裕介（トランペット）、長野 朱里（ユーフォニアム）、

【振付指導】 岩澤 剣司、吉野 空子、西 伊登子、平敷 勇也、具志堅 善輝

【方言指導】 林 富義志【子役出演】 徳 凜佳

【衣装協力】 西伊登子琉舞道場、Nalu、(株)ニライスタジオ【ポスター協力】 下村 真介

【スタッフ】 百合の会保護者メンバー【撮影】 サンプランニング

【後援】 知名町文化協会、和泊町教育委員会、和泊町文化協会、奄美新聞社、南海日日新聞社

【問合せ】 運営事務局 担当：藤崎 0997-81-5151（あしびの郷・ちな）

松永 太郎



## 脚本・演出・音楽

1974年志布志市松山町生まれ。鹿屋高校卒業。大学時代に訪れた沖縄に惹かれ移住し、舞台演出を学ぶ。その後2007年から鹿児島を拠点に演出家としての活動をスタート。「高校生ミュージカル・ヒメとヒコ」をきっかけとし、「ミュージカル・ヤジロウと海乱鬼」や「ミュージカル・えらぶ百合物語」などの鹿児島歴史をモチーフにした作品や「ミュージカル花戦さ」などを手がける。第30回国民文化祭かごしま2015では閉会式の総合演出を務め、鹿児島県芸術文化奨励賞を受賞。劇団ニライスタジオ代表。

るにあたり知名町の職員の方々、地域の方々から多大なご支援をいただきました。特に保護者の方々の熱心なサポートには、いつも頭が下がる思いです。

そして皆さんとの歓談の場で気付いたことがあります。それは、この島の大人たちは常に子どもの話ばかりしているなということです。どこの誰が部活で頑張ったとか、誰にはこんな優しい面があるとか。常に子どもたちを温かい目で見守り、島全体で育てていこうとしている。そんな人作りに長けた島だからこそ、アイザックもトゥーループ号の乗組員たちも、そして私自身も、この島を第二の故郷のように思ってしまうのではないのでしょうか。人が人を育てる。地域が人を育む。そんな当たり前であり、最も尊いことを教えてくれる、そんな沖永良部島が私は大好きです。

2008年、奄美島唄の永志保さんとのご縁で知名町の夏祭りに出演させていただいたのが、このミュージカルを創作するきっかけとなりました。祭り会場の片隅にある木の下で当時の職員さんが、「町民でオリジナルの舞台を作りたいんです」と熱心に相談して下さったことを、まるで昨日のこのように覚えています。それから島の歴史を調べ始め、これなら演劇作品にできそうだとピンときたのが、百合の花の物語でした。

島の歴史や文化を描く時に、私は外からの視線が重要だと思っています。黒潮の流れるこの沖永良部島には、海が運んできた幾多の出会いがあります。トゥーループ号の漂着のように、神の悪戯で「たまたま」起きてしまった人々の交流のように。ですが、外からやってきた誰をも虐にしてしまう「何か」が、この島にはあると思っています。もちろん私もその虐となった一人なのですが、外の人たちを魅了する、その「何か」を描きたいと思って書いた脚本が、「えらぶ百合物語」です。

この話は、イギリス人のプラントハンターであるアイザック・バウンディングと島の人々との交流を描いています。島に咲き誇るテップウユリに魅了されたアイザックですが、こんな出会いや交流があってもいいかもしれないと創作しました。そこにはアイザックの視線を通した沖永良部島が描かれています。彼を本当に魅了したのは、花だけではなく島の人々であり、その人々が育んだ島の文化であり、哲学なのでしょう。この舞台を制作する

2017  
3月

仲良くなったのはいいが緊張感が希薄になる。まだ時間は十分あると思っているのか。いまい本番がイメージできていないのだろう、疲れたときの集中力のなさは顕著だ。それに加え、勉強、部活、習い事、皆頑張りたいことがミュージカル以外にたくさんある。良い時と悪い時、ムラがある。自分の気分が左右されてはいけない。午前中の一発目の練習だって本番と同じようにやらないと。太郎さんに盛り上げてもらってやっといいものができるなんてだめだ。自分でコントロールする。どんな時でも全力で。たとえ悲しいことがあっても切り替える。そうじゃないと一つになれない。いつも全力でやる人と、そうでない人の成長の幅が変わってくることは容易に想像できるはずだ。そして、みんなでやることなのだから、その幅はもっともっと大きくなる。3月末には初舞台を経験した。このメンバーでの初舞台。みなキラキラしていた。ハードな合宿も経験し、この勢いでどんどん成長していくように思われた。



台本が配られたのはキャスト発表があった日。しかし稽古でまだ皆が台本を持っている。皆いい子だし、稽古はそれなりに頑張っているようにみえるが、やる気がないのか、セリフのない役の人からはどう見えていたのか。凄く仲が良くって優しい人ばかりのこのカンパニー。でも居心地のいい空気づくりだけではだめだ。

本番お金を払って、時間を割いて見に来てくれるお客様を、そしていつも支えてくれている家族、迷惑をかけているであろう、部活のメンバーのこと考えなければいけない。本番まで1ヶ月を切った頃。終わりを意識し始めたのか、やっと空気が変わってきた。あたりまえのように稽古で顔を合わせている皆と会えなくなる。太郎さんに稽古を見ていただけるのもあとわずか。すると、不思議なもので芝居が変わった。スロースターターすぎるよ皆。こんなに出来るんじゃない!と思いつつも、あっさり変わった皆の姿。とても嬉しくて涙が出た。いつの間にかこの作品が皆の支えになっていた。この作品のセリフに、歌詞に、振付に、心が動かされるのです。なんて素敵な作品に出会えたんだろう。この作品を愛すれば愛するほどいろんな解釈ができる。ありがとう。いよいよ本番。彼らは本番中もどんどん成長していくことでしょう。このメンバーで創りあげた全く新しい「えらぶ百合物語」どうぞご覧ください。皆へ…きつと自分の役が観客席から見守ってくれています。じぶんの役がみても恥ずかしくないように思いっきり演じてね。

2017  
4~5  
月



2017  
8/25

「えらぶ百合物語」が再演に向けて動き出した。いよいよ始まるこの日を心待ちにしていたのであろうか、ステージでは異様な程の緊張感が漂っていた。始めの自己紹介では、あまりに自信なさげな細い声に、これから舞台を創ることができるだろうか少し心配であった。何はともあれ、ここから私たちの航海が始まりました。一度乗ったら降りられない大海原へ乗り出したのです。



まだまだお互いに気を使いつつも、仲間に少しずつ、少しずつ打ち解けていく。小学生は中学生や高校生と話すできなかった。無理はない。普段はほとんど関わらない。稽古は基礎練習がメイン。舞台に立つうえで最も重要。ストレッチや体幹トレーニング、立ち方、歩き方、発声、それは華やかな舞台のイメージとは真逆である。地道にコツコツ。ただ立つということがいかに難しいかを知った。

2017  
9~11  
月

2017  
12月

いよいよ本公演に向けての稽古が本格的にスタートした。キャストはまだ決まっていない。本番で出演しないかもしれない曲を覚える。例え出番がなくても、それが大事。太郎さんはキャスティングに悩んだらう。うまい人を選べばいいわけではない。皆は気づいていたのかな。演出家や振付家が島外から来島して、稽古場にはいつも稽古ピアノやギターがあって練習できるということがどれだけ恵まれていることなのか。プロだって中々なほど環境に恵まれる。

2018  
1~2  
月

「今から一人ずつ『えらぶ百合の花』を歌ってもらいます。振付された部分のダンス、そしてセリフを見ます」と突然の発言。今まで皆の前で一人で舞台に立つことがなかった。オーディションであることは気が付いたであろう。困惑しつつも、皆、顔には出さない。やりたい役を掴むために、必死に一人で舞台に立った。はっきり言って普段の練習で皆の実力はわかっていたはず。だけど、あえて経験のためにそういう場を用意してくれたんだと思います。そして舞台に立つ覚悟を見たかったのだと思います。たとえ意中の役がつかめなくても全力でやりきる覚悟。自分のことだけでなく皆のことを考えられるか。そして『えらぶ百合物語』という一つの作品を創るために必要なことを皆が考えるきっかけになったであろう。オーディションは緊張する。普段はもっとできるのに。たまたま歌詞がとんだ。踊りを失敗してしまった。それは全く通用しない。本番は1回なのだから。お客様はその1回しか見れない。それに、失敗して顔に出てしまっている時点で役になっていない。素に戻っている。舞台経験のない皆に要求することが高すぎるかもしれないがえて言う。一番大切なのはその部分。技術ではない、その役として生きれているか。自分が役に生きて心を動かさなければお客様の心が動かないからね。ただ笑って踊ればいいんじゃないんだよ。失敗は実はどうってことない。大事なのは失敗のあと。役が失敗したことにできればそれは成功だ。そのぐらい集中力が必要。『役を愛する。その役が観客先で見られているから』オーディションの翌日キャスト発表があった。嬉しかった者、悔しかった者、意外だった者。それぞれの想いがあった。空気を読み、手放しで喜んだり、泣いたりする人はいなかった。皆偉かった。気づけばこの頃から、学年の壁がなくなり、小学生が高校生にアドバイスをするという非常に頼もしい場面に遭遇することもあった。『馴れ合い』いい仲間に出会えたね。

灼熱の白い花 詩・曲 / 松永太郎

黒潮がつかない物語 古(いにしえ)の愛のうた  
月の下交わした約束は 時を越え世をかける

灼熱の白い花 はるか彼方を思い  
私は一人 風に吹かれて あなたの帰りを待つ

迷いさまよえる暗い日々も 傷つけ合った時も  
この島は静かに微笑んで 全て包んでくれる

見上げれば星の花 はるか遠の空よ  
私は一人 流星のように 刹那に消えゆく宿命

三線の弦や きりりばどう継ぐゆる  
縁のきりていから 継ぎがならん

空に咲く百合の花 はるか彼方の国で  
悲しみ癒し 愛を咲かせる 島の生命(いのち)

灼熱の白い花 わきや島に咲き誇れ  
あなたと蒔いた 希望の種を  
永遠にこの地につなぐ

結の島から 詩・曲 / 松永太郎

砂を洗う波音が なぎさに響き  
水平線に昇る朝日 生命(いのち)を照らす  
はるか彼方を目指して こだわった船  
私たちの夢をのせて 大海原へ

※今旅立とう 未来への船出  
美しい明日を求め この船は行く  
南の風をつかまえて 黒潮が繋ぐ海へ  
結の島から あなたへ

月明りを頼りに 未知なる海に行く  
瞬く星の向こうに 故郷想う  
私たちは生まれた 母なる海で  
出会いを結び 生命(いのち)を繋げ また還ってゆく

今漕ぎ出そう ニライへの船出  
新しい明日を夢見 この船は行く  
南の風を背に受けて 黒潮が繋ぐ海へ  
結の島から あなたへ

蒼く光る水面に 白い鳥が飛び立つ  
あなたの生きた時代を 継いでゆくこと  
新しく芽吹く生命(いのち) 守ること  
※繰り返し

永良部百合の花

永良部百合ぬ花 アメリカに咲かちやりくぬ  
うりがくがに花 島によさかさ

※アングワヨーストウ ナイキャシュンガシュンガ

いかな横浜ぬ 波荒さあていむやりくぬ  
百合や捨ているなよ 島ぬよ一室

※アングワヨーストウ ナイキャシュンガシュンガ

百合や島育ち わきやむ島 育ちやりくぬ  
たげにいるすりてい咲かゆていよ一暮らさ

※アングワヨーストウ ナイキャシュンガシュンガ

百合玉ぬきゆらさ くくる抱きしみていやりくぬ  
えらびえらばらぬ ものによなゆり

※アングワヨーストウ ナイキャシュンガシュンガ

いかなゆぬなかぬ 波荒さあていむやりくぬ  
ぬちや捨ているなよ うらぬよ一室

※アングワヨーストウ ナイキャシュンガシュンガ



えらぶの子守唄

泣くくな童 誰が泣きでい言ちよ  
我が守らば眠り ヨーヒヨ童

眠りでいどう言ちやる 誰が泣きでい言ちよ  
泣かなぬわてい成育り 花ぬ童

君が如何ん泣ちやんて 君親め聞きゆみ  
我ぬどう親成とてい 君む守ゆる

産し子振り捨ててい 花咲かんでい為りや  
居らぬ親深めてい 泣きゆらとう思てい

石ぬ上に土置いてい 土ぬ上に花植いてい  
其りか花咲かば 我子に上りら

子守者ぬ哀り 夜昼め物思  
物思忘りらば 御祝為やぶら

※一部劇中歌使用

## 沖永良部島とえらぶゆり

### 世界で知られた花「えらぶゆり」

※えらぶゆり公式サイトより抜粋

「えらぶゆり」はアメリカで命名されました。アメリカでは「エラブリー」と言います。色白く芳香を漂わせ、楚々と咲く花。その白百合の姿は、聖母マリアの高貴なお姿の様です。明治30年代、この花を求めてヨーロッパ人が奄美大島に訪ねてきました。彼らは、アメリカにこのテッポウユリの球根を輸出し復活祭の花として人気を博したといます。この沖永良部島にも1人のイギリス人がやってきました。その名をアイザック・バンディングといます。彼は、横浜でプラントハンターとして輸出商社を営んでおり、テッポウユリを求め沖永良部にやってきたと考えられています。彼は故郷のイギリスに日本のユリを送って、華麗な庭園を築き、知名人を招待して楽しんだといます。沖永良部島は「花の島」です。「花の島」の歴史は「えらぶゆり」の歴史です。大正時代には、沖永良部のテッポウユリがアメリカでカタログ商品として知られるようになり、カタログには次のように紹介されていたといます。

#### 「本社特選リリー” Erabu(エラブ)”

過去25年間に米国花卉市場で紹介されたものの中で、最上の優良品種を本社社員が沖永良部島にて発見。この” Erabu (エラブ)” は丈夫で花の咲き振りもよく、素人にでも容易に栽培できます。

世界広しといえどもアメリカで島の名からつけられた商品など、ほとんどないはず。このように「えらぶゆり」は、沖永良部の島を象徴した花となりました。



先田 光演 (さきた みつひこ)  
「えらぶ郷土研究会会長」  
1942年和泊町国頭生まれ、  
鹿児島大学教育学部卒・中学校教諭であり、奄美の民俗、歴史調査・研究を続け、多くの論文を発表し、奄美の歴史と民俗研究に貢献。2003年に和泊中学校校長を退職・和泊町歴史民俗資料館勤務現在に至る。



時は昔、ユリの曾祖母であるナミが島に漂着した外国人アイザックに出会う。怪我をしていたアイザックの看病をするうちに、アイザックに惹かれていくナミ。アイザックもまた、得体の知れぬ外国人に対しても、島の人と同じように接してくれるナミに心惹かれていく。しかし、貿易会社の社長であるアイザックは本国カナダに戻らなければならなかった。



引き裂かれてゆく運命の中で、ナミとアイザックの愛の形とは。  
えらぶ百合にまつわる、海を越えた壮大な物語。  
ぜひ、大切な方と一緒にご覧ください。



ある日、カナダからやってきた親友のリリィとユリの2人は、人のルーツを見ることが出来るというクラスの先生の不思議な力により、2人の過去が繋がっているという真実を知る。



必ず戻るとナミへ約束し、カナダへ帰国するが、そこには、社長として組織を担う重責、そして、親が決めた婚約者メアリーの存在が。現実とナミへの想いの中で揺れ動くアイザック。